

# 平成24年度病害虫発生予報第1号

平成24年4月5日  
鳥取県病害虫防除所

## 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
普通作物	イネ	苗立枯病	—	平年並
		ばか苗病	平年並	やや少ない
		イネシンガレセンチュウ	平年並	少ない
	オオムギ	赤かび病	遅い	平年並
		うどんこ病	—	やや少ない
		網斑病	—	平年並
果樹	ナシ	黒斑病	やや遅い	平年並
		黒星病	やや遅い	平年並
		赤星病	やや遅い	平年並
		ハダニ類	やや遅い	平年並
		カメムシ類	やや遅い	平年並
野菜	ラッキョウ	灰色かび病	平年並	やや多い
	スイカ、メロン、タバコ	アブラムシ類	やや遅い	平年並

## 気象予報（抜粋）

1か月予報（3月31日～4月30日：3月30日、広島地方气象台発表）

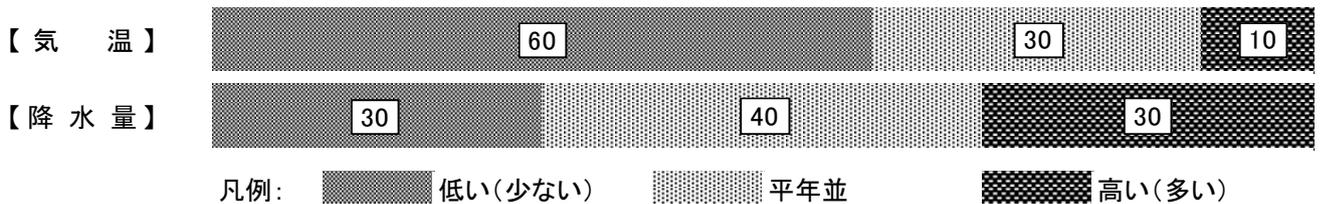
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わってでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

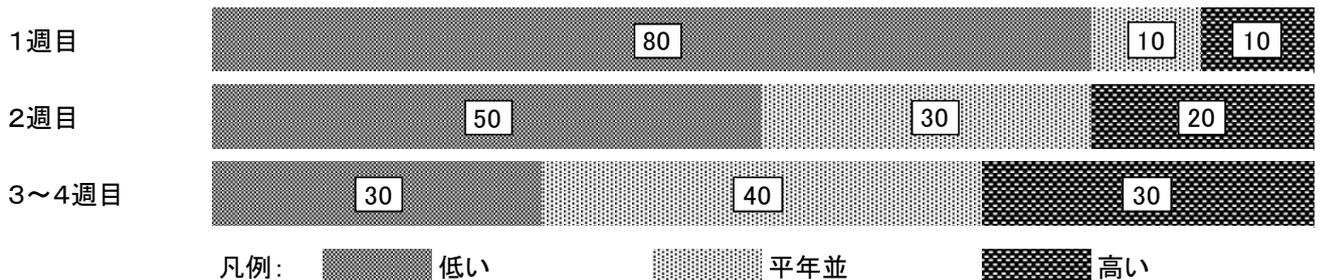
向こう1か月の平均気温は、低い確率が60%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率80%です。2週目は、低い確率50%です。

### <向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(>



### <気温経過の各階級の確率(>



## 普通作物

### [イ ネ]

#### 1 苗立枯病

##### (1) 予報の内容

発生地域 県内全域  
発生量 平年並

##### (2) 予報の根拠

ア 苗立枯病の予防防除が広く普及している。  
イ 向こう1か月の気象予報から発生量は平年並と予想される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の防除は困難であるため、予防防除を徹底する。  
イ 育苗環境を清潔に保ち、育苗中の温度管理及び水管理に注意する。  
ウ ムレ苗が発生した場合には、タチガレエース液剤の500～1,000倍液  
又はタチガレン液剤の500～1,000倍液を箱当たり0.5リットルかん  
注し、夜間の保温と昼間の遮光に努め、苗の回復を図る。移植可能であれば、  
早めに本田に移植する。

#### 2 ばか苗病

##### (1) 予報の内容

発生地域 県内全域  
発生時期 平年並(育苗期)  
発生量 やや少ない

##### (2) 予報の根拠

前年の発生はやや少なかったため、本年用種子の保菌率はやや低いものと推測される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。  
イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。  
ウ 温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜、水の交換を行う。  
エ 薬剤による種子消毒(低濃度長時間浸漬)にあたっては、薬液がよく浸透するように網袋にゆとりを持たせる。また、薬液の温度が10℃以下にならないように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、水の交換は原則として行わないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水する。なお、薬剤については、病虫害防除指針などを参考にする。

#### 3 イネシソガレセンチュウ

##### (1) 予報の内容

発生時期 平年並  
発生量 少ない

##### (2) 予報の根拠

前年の本種による葉先枯れ症状の発生は少なかったため、汚染籾率は低いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。
- イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。
- ウ 温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。
- エ 薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）の場合、ばか苗病防除薬剤と本種防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので注意する。なお、薬剤については、病虫害防除指針などを参考にする。

[ム ギ (オオムギ)]

1 赤かび病

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生時期	遅い
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

- ア 二条オオムギ、六条オオムギとも出穂期は遅いと予想されている。
- イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 六条オオムギは、二条オオムギに比べて本病が発生しやすいので注意する。
- イ 発病後の防除は困難であるため、病虫害防除指針などを参考にして薬剤による予防防除を行う。防除適期は、二条オオムギでは穂揃い期の10日後ころ、六条オオムギでは開花を始めた時期～開花期、及びその7～10日後である。

2 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生量	やや少ない

(2) 予報の根拠

これまでの気象推移及び向こう1か月の気象予報から、発生量はやや少ないと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉色が濃い過繁茂のほ場では、多発生の恐れがあるので注意する。
- イ 発生がみられる場合には、病虫害防除指針などを参考にして薬剤による防除を行う。

3 網斑病

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

これまでの気象推移及び向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉色が濃い過繁茂のほ場では、多発生する恐れがあるので注意する。

イ 発生がみられる場合には、病虫害防除指針などを参考にして薬剤による防除を行う。

## 果 樹

### [ナ シ]

#### 1 黒斑病

##### (1) 予報の内容

発生時期 やや遅い

発生量 平年並

##### (2) 予報の根拠

ア ナシ園における越冬菌密度調査の結果によると、短果枝の病芽率及び一年枝上の枝病斑数はほぼ平年並であった。

イ ナシの生育は平年と比べてやや遅い。

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年よりも低くなると見込まれており、発生時期はやや遅くなると推察される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 開花前～人工交配終了後に、伝染源となる病芽の除去を徹底する。

イ 開花期に病原菌が雌しべに侵入することがあるので、開花前～人工交配直後の薬剤防除を徹底する。

ウ 薬剤は開花始めにチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックスフロアブル）500倍液など、人工交配終了後にフロンサイドSC2，000倍液またはベルコートフロアブル1，500倍液など、落花期に有機銅水和剤（キノンドーフロアブル又はドキリンフロアブル）1，000倍液などを散布する。

#### 2 黒星病

##### (1) 予報の内容

発生時期 やや遅い

発生量 平年並

##### (2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園（幸水及び豊水）における病芽率は0.8%（平年1.2%）で、平年並であった。

イ 越冬伝染源からの胞子の飛散は3月下旬から始まっており、飛散開始時期はほぼ平年並であった。

ウ ナシの生育は平年と比べてやや遅い。

エ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年よりも低くなると見込まれており、発生時期はやや遅くなると推察される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア りん片の脱落の悪い腋花芽は芽基部病斑を形成しやすく、本病の伝染源となるので、これらを開花始め～落花期に見回って切り取っておく。

イ 開花期に降雨が続くと多発しやすいので、開花前～落花期の防除を徹底する。

ウ 薬剤は、開花始めにアンビルフロアブル1，500倍液など、落花期にEBI剤（スコア顆粒水和剤又はオンリーワンフロアブルなど）4，000倍とチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍の混用液などを散布する。

### 3 赤星病

#### (1) 予報の内容

発生時期 やや遅い  
発生量 平年並

#### (2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場のビヤクシン上における冬孢子堆の形成量は、ほぼ平年並であった。

イ 4月2日現在、伝染源となるビヤクシン上の冬孢子堆の膨潤は0%で、膨潤程度は平年並～やや遅い。

ウ ナシの生育は平年と比べてやや遅い。

エ 向こう1か月の気象予報から、気温は平年よりも低くなると見込まれており、発生時期はやや遅くなると推察される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 果樹園の近くにビヤクシン類が植栽され、4月中～下旬に雨が多い場合、発病しやすくなる。

イ 近年、生け垣などにビヤクシン類が植栽されている地域では、本病の発生がやや目立っている。

ウ 冬孢子堆の膨潤と小生子の飛散最盛期は、例年、満開前後の降雨直後となるので、この時期の防除を徹底する。

エ 薬剤は開花始めにアンビルフロアブル1，500倍液など、落花期にEBI剤（スコア顆粒水和剤又はオンリーワンフロアブルなど）4，000倍とチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍との混用液などを散布する。

オ 5月以降に葉の発病がみられるときは、EBI剤（スコア顆粒水和剤4，000倍液、オンリーワンフロアブル4，000倍液、アンビルフロアブル1，500倍液など）を追加散布する。

### 4 ハダニ類

#### (1) 予報の内容

発生時期 やや遅い  
発生量 平年並

#### (2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園におけるハダニ類の越冬密度はやや少ない～少なかったものの、現地では平成23年秋期にカンザワハダニの発生密度が高い事例が散見された。

イ ナシの生育は平年と比べてやや遅い。

#### (3) 防除上注意すべき事項

蕾や葉にハダニ類の発生が認められた場合は、開花始めまでにカネマイトフロアブル1，500倍液などを単用で、薬液が葉裏によくかかるように丁寧に散布する。

## 5 カメムシ類

### (1) 予報の内容

発生時期 やや遅い  
発生量 平年並

### (2) 予報の根拠

ア クサギカメムシの越冬成虫数(簡易小屋トラップ)は、1トラップあたり3.4頭(平年:6.0頭)で平年と比較してやや少なく、前年よりやや多い(前年:0.5頭)。

イ ナシの生育は平年と比べてやや遅い。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 山間地及び民家近くの果樹園で例年発生が認められる園では、春期の被害が予想されるため、成虫の飛来を注意して観察する。

イ ナシ園への飛来が認められた場合は、直ちにジノテフラン水溶剤(アルバリン顆粒水溶剤又はスタークル顆粒水溶剤)2,000倍液などを追加散布する。

## 野 菜

### [ラッキョウ]

## 1 灰色かび病

### (1) 予報の内容

発生時期 平年並  
発生量 やや多い

### (2) 予報の根拠

ア 本病の初発生時期は、ほぼ平年並の3月中～下旬であった。

イ 3月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は県中部では平年並であるが、県東部でやや多い。

ウ 本病は4月に高温多雨で、5月に低温多雨の条件で発生が増加しやすい。向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 4月下旬まで、ロブラール水和剤1,000倍液、カンタスドライフロアブル1,500倍液、セイビアーフロアブル20の1,000倍液、ダコニール1000の1,000倍液などを輪番で散布する。

イ 降雨後には、枯れた葉の病斑上に多数の分生子を形成するので、降雨後の防除を徹底する。

ウ 茎葉が過繁茂となったラッキョウは、株元に薬液がかかりにくい状態となっているので、丁寧に散布する。

## [スイカ・メロン・タバコ]

### 1 アブラムシ類

#### (1) 予報の内容

発生時期 やや遅い

発生量 平年並

#### (2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場（東伯郡北栄町、露地ほ場）における黄色水盤への有翅虫の初飛来は、4月1日現在確認されていない。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生時期はやや遅く、発生量は平年並と予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気部分や出入口には寒冷紗被覆を行い、アブラムシ類の侵入防止に努める。

イ 葉裏を注意して観察し、初期防除を徹底する。

ウ スイカにおいて、ハウス栽培では交配前にミツバチへの影響のないチェス顆粒水和剤5,000倍液を散布する。トンネル栽培ではつる引き誘引時期に、チェス顆粒水和剤5,000倍液を、交配前にバリアード顆粒水和剤4,000倍液を散布する。

エ メロンでは、チェス顆粒水和剤5,000倍液、バリアード顆粒水和剤4,000倍、モスピラン顆粒水溶剤8,000倍液などを散布する。

オ タバコの近隣にジャガイモを栽培している場合は、タバコ黄斑えそ病の伝染源となるので掘り残しイモをすべて除去する。また、ジャガイモやタバコを透明寒冷紗などにより被覆栽培するなどして本病の伝染を防ぐ。